

平成二十七年度 入学式 式辞

穏やかな春の日差しが降り注ぎ、ここ西宮の地、甲山の木々も一斉に緑を増し、目にも一段と鮮やかな季節を迎えました。

本日この佳き日、ここに、平成二十七年度 兵庫県立西宮甲山高等学校の入学式を挙行できますことは、誠に大きな喜びであります。

この希望にあふれた日にお忙しいにも関わりませず、ご臨席賜りました、ご来賓の方々や保護者の方々に、高いところからではございますが、厚く御礼申し上げます。

さて、ただ今入学を許可いたしました二百名の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは、先ほど担任の先生から一人ひとりの名前を呼ばれ、それぞれが「はい」と返事をしました。皆さんは、入学の宣誓をされたのです。そして「はい」と返事をされた皆さんに対して、私は入学の許可をいたしました。私ども教職員一同、心から祝福し歓迎します。

今、皆さんは入学の喜びと、これから始まる高校生活への少しの不安、そして将来への大いなる希望に胸を膨らませていることでしょう。しかし、この場にいることができるのは、皆さんを慈しみ、育ててこられた保護者の方をはじめ、多くの人々の力添えがあったことに対して、感謝の気持ちを忘れてはなりません。このことをしっかりと自分の胸に刻み、本校での第一歩を踏み出してください。

今日から始まる高校生活を充実したものにするために、私は校長として皆さんに、お願いをしたいと思います。それは「本校を愛する心、愛校心を持ってほしい」ということです。すなわち、この西宮甲山高校を「好き」に、できれば「大好き」に、なってもらいたいということです。江戸時代の儒学者である佐藤一齋は、「子供の教育訓」において「よい先生を選べ、よい友を選べ、よい土地を選べ」と述べています。この言葉は甲山高校、甲高にぴったりの言葉です。私もこの四月に着任して、まだまだ本校のことについては分からないことばかりですが、皆さんと同じように、この学校を「大好き」になるよう、自らが努力し行動していくつもりです。本校を「好き」になるために、皆さんが意識して取り組んでもらいたい行動・姿勢・考え方をいくつかあげてみます。

一つ目は、「絆を結び、深めてほしい」ということです。皆さんは本校で、たくさんの人、仲間と出会うことでしょう。仲間とは、甲高の生徒だけを表すのではなく、広い意味では教職員、保護者、卒業生、地域の方々をも、指しています。

そのような中で、私たち教職員と在校生は、西宮甲山高校をキラリと光る、たった一つの、魅力あふれる学校にしようと思っています。だから、甲高は「西宮でオンリーワン」の学校を目指します。甲高でしかできない学習内容、甲高でなかったらできない学校行事、そのようなものを目指して、学校づくりを教職員・在校生一丸となって、行っていきます。

現在、本校では、少人数クラス展開を実施しています。定員二百人、五クラス規模の学年ではありますが、本校独自の事業として、六クラスに編成し直し、展開することで、よりきめ細やかな対応が可能となっています。つまり、特色選抜による教育総合類型の生徒は三十人で一学級、複数志願選抜による入学生は各クラス三十四人の五学級の編成

となります。また、オリエンテーション合宿、西宮南高との運動部定期戦を始めとするさまざまな魅力的な学校行事も、皆さんを待っています。ぜひ、積極的に参加し、充実した高校生活を送ってください。

二つ目は、この西宮甲山高校で一所懸命「勉強」してほしいということです。学校はやはり勉強をするところです。勉強には、さまざまな形があります。先生から教わることも大切ですが、自らが学ぶ姿勢を育むことが、もっとも重要であると考えています。本校には、そのための条件はすべて整っています。あとは、皆さんがその気になるかどうかです。教職員は皆さんへの支援を惜しみません。どうか、先生方を大いに利用してください。

入学された皆さんに、これから始まる高校生活に向けて、ある講演で私の心に残っている言葉を送ります。

それは、私の前任校である兵庫工業高等学校の創立百十周年の記念式典において、北海道に本社を構える植松電機の専務、植松 務（うえまつ つとむ）さんの講演の中の言葉です。植松電機は、一般の電機会社とは少し違い、世界に通用するキラリと光る技術開発、その中でも特にロケット開発において、ポリエチレンと液体酸素を推進剤とするハイブリッド燃料の開発で、有名な会社です。その植松専務の言葉の中で、

「どうせ無理」という言葉は、人の可能性を奪います。興味を持たなくなり、やる前に諦め、考えなくなってしまいます。

「だったら、こうしてみたら？」という言葉は、人の可能性を広げます。今まで、やったことが無いことに挑戦し、あきらめず、より良く、を求めるようになります。

この講演のタイトルは、「思うは招く どうせ無理をなくしたら、世界は変わる」でした。何かを「思う」ことで、何かを「招く」ことができる。さて、皆さんは、何を思い、何を招きますか。

最後に、保護者の皆さまに一言お願いを申し上げます。私たちは本日からお子様をお預かりし、三年後には大きく成長した姿で、卒業生として送り出したいと、強く願っています。しかし、教育は学校だけで、できるものではありません。家庭でしかできないこともあり、お子様の成長には、学校と家庭とが互いに連携し、協力していくことが必要・不可欠です。ご家庭におかれましても、ぜひ学校の様子を聞いていただき、お子様の成長を見守っていただければと存じます。あわせて、お子様が健康で規則正しい生活を送れるようサポートしていただきますようお願い申し上げます。もし、何か心配なことがございましたら、遠慮なく担任までご連絡ください。

本日入学された生徒の皆さん全員が、この三年間に大きく成長し、地域社会に貢献できる人材となって羽ばたくことを祈念し、平成二十七年度 第三十三回入学式の式辞といたします。

平成二十七年 四月八日
兵庫県立西宮甲山高等学校長
松 本 修 身